

—総括表—

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

上笹下地区は磯子区の南部に位置した南北縦長の地域で、面積は区内最大となっています。円海山や大岡川の清流など、恵まれた自然環境があり、夏には、今では珍しくなった蛍の観察ができるなどの磯子区民の憩いの地域を有しています。昭和40年代に開発された大規模集合住宅、大手不動産メーカーが開発整備した、宅地が混在しています。南北を縦断するように笹下釜利谷道路が走っていますが、そこから一步入ると、坂や狭い道が多く、高低差があり、公共交通機関も充足しているとはあまり言えません。上笹下地区全体の高齢化率29.5%と進行。上中里町、氷取沢町では35%を超え、特に高齢化が進んでいます。世帯を構成する人数が減少、高齢者の一人暮らし、高齢の夫婦のみといった世帯が増えてきています。エレベーターのない集合住宅が多く、「階段が下りれない」「バスの乗り降りが大変」等、外出支援の問題は今後ますます大きくなっていくと考えられます。田中や栗木など、ケアプラザとは端に位置しているため、ケアプラザへ足を運ぶことが難しい方が多く、ケアプラザで何かやってもそこまで行けない。遠い。そもそもケアプラザって何？知らないというかたもまだまだ多い状況にあり、幅広く周知活動を行っていく必要があります。地域住民また地域の施設・事業所等と連携を図り、ネットワークの構築・担い手の育成・支援、年を重ねても住み慣れた地域で自分らしく暮らせるよう、地域包括ケアシステムの構築を目指していきます。

今年度の重点的な取組

新規	継続	—具体的な取組内容—
■	<input type="checkbox"/>	「困った時の情報ガイド」の更新を行ない自治会町内会を通じて老人会等に7月配布する
■	<input type="checkbox"/>	「かいごフェス」の中で介護保険制度・介護保険サービス等の情報提供、上笹下エリア介護サービス事業所の紹介を行なうなど介護に関する様々な情報提供を行う
■	<input type="checkbox"/>	「仲間づくり塾」を開催し担い手の発掘、育成を行なう
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止・予防に終始した1年でした。緊急事態宣言を受け、包括支援センター相談業務を残してプラザを閉館する事態となり、緊急事態宣言解除後は、密にならないような工夫、感染予防・感染対策に努めながら事業、福祉保健活動の場として運営を行ってまいりましたが、全てが手探りの状態で、計画の縮小・中止を余儀なくされた事業もありました。地域での行事、催しも中止となる中、地域に対して積極的なアウトリーチも難しい状況ではありましたが、① 身近な役立つツールとして「困った時の情報ガイド」を更新し、自治会・町内会、民生委員や地域のCMを通じ、地域の高齢者世帯に配布。② かいごフェスを通じて地域の施設・事業所との連携を図ると共に、民生委員と地区の情報や、支援を必要としている方などの情報の共有化、ネットワークの構築に努めました。③ 仲間づくり塾では、新型コロナウイルス感染症による先の見えない不透明感・閉塞感のある中、地域活動の一步を踏み出すきっかけづくりなどに取り組みました。また、ICT環境整備（Wi-Fi 整備）を行い、「新しい生活様式」に対応したオンラインも可能となりました。これにより、今まで関わりの薄かった若年者層や来館が難しかった方などとのつながりが可能となるため、今後、より幅広い事業の展開を模索していきます。

区からのコメント

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、事業の実施が困難になる等大変なことが多かったと思います。中でも感染対策等の工夫をしながら事業を実施されてきたことがわかります。中でも民生委員と直接話す機会を持ったり、事業所連絡会や地域住民と介護事業者が結びつく「かいごフェス」が実施できたことはこれから何が起こるかかわからない社会情勢の中での今後のネットワークづくりに非常に有効だったと思います。今後とも、継続していただきたいと思ひますし、区役所にもできることがありましたらご相談いただければと思います。今後は地域ケアプラザの専門職が様々な事業で得た情報やネットワークを、地域の住民の人達と共有しながら新しい方法で楽しみながらつながっていく仕組みを一緒に考えるような積極的な取組を期待します。